

CFOとその プロフェッショナルリズム

日本 本という国は大変分かりにくい国です。アジアにおける経済的先進国といわれているのにCFAが数千人しかないといふ。われわれは、アジア・太平洋地区の開発に関連するフィナンサーについて、今後その財務のデスクリプターをはじめとして必要な情報と保証などをフイロしなければなりません。日本をパートナーとして期待することはできないのです……世銀(World Bank)の理事としてのチャマンは、またで開催されていたアジア・太平洋開発融資会議(ADB・アジア開発銀行等主催)のあふれんばかりの聴衆の前でそのように述べた。

当時、公認会計士協会会長になつたばかりの私は、この会議に出席する予定ではなかったのだが、CFA・アジア・太平洋会計士連盟の実行委員会に出席するため、たまたま同じミラに來ていたため、予定を変更して急遽の会議に参加していた。日本代表として出席するところになっていた大学教授が、日本もADBに金だけ出しているとはいってわけではないと日本の対応のまずさに憤慨していたからであった。「ミスター・チャマン」。私はCFA等の日米のシムズの違いを述べ、英米のよつに企業内CFAはなじにしても日本の企業会計に關与する



人の質の高さや人数について説明し、前言を撤回し誤解を解くように要請した。二〇〇一年はと前の話である。わが国の企業会計やその開示制度、あるいは公認会計士制度とその運用等は、当時よりは格段の進歩を遂げている。しかし、わが国の企業会計や監査の実務、それに関連するプロフェッショナルが、海外からはさへいぶる分かりにくい姿であることは本質的に変わっていない。米国のCFA三四万人余に対して日本のCFAは会計士補を入れても二万人ばかり。公認会計士法が改正されたといつても、その登録は開業登録制度をとっており、英米等の資格登録制度をとっていない。わが国の会計プロフェッショナルの裾野は、英米の如く形の上では広くはない組織化もされていない。

昨秋私は、久しぶりに中国を訪れた。注册会计师(注)三〇万人計画推進運動も順調に進んでいるといふことで、今度は全人代委員を会長に据えて総会計師会を編成し、その教育と増強を図り、中国の一層の経済発展に寄与させようといふ。総会計師といふのはCFO: Chief Financial Officerであり、企業内会計士としての専門性を高めるためのプロフェッショナルの養成を目指しているのである。

いまやプロフェッショナルとしてのCFOの養成や、そしてそのプロフェッショナルの確立は実質的な必要のみならず、国際的な視座からも喫緊の重要課題である。

(注) 中国における公認会計士